5月 May

薬剤耐性菌の増加が危機的状況

国連、国際機関、専門家は薬剤耐性菌が世界的に増加し危機的状況にあり、早急に対策を 講じるよう各国に求める共同報告書を発表しました。 このまま何も行動をとらなければ、薬剤耐性を獲得した疾病によって 2050 年までに毎年 1000 万人が死亡し、世界経済は 2008-09 年の金融危機に匹敵する破滅的な経済被害をも たらします。

蛇咬による死亡、障害の半減を目標とした戦略

WHO は蛇毒の予防戦略の追加の詳細を公表しました。蛇毒による健康被害は顧みられない熱帯病の一つであり、毎年 180 万から 270 万人が被害にあっています。そのうち 81000 から 138000 人が死亡し、40 万人が永久的な障がい者となります。 この戦略は蛇毒による死亡者と障がい者を今後の 12 年間で半 減させようというものです。

欧州地域の看護師、助産師のリーダー・ストーリー

国際助産師の日（5月5日）、国際看護師の日（5月12日）にちなみ、WHO 欧州地域で 指導的な役割を果たしている看護師、助産師 9 人の感動的な話が紹介されています。 共通しているのは、仕事への愛情、患者への貢献の気持ち、そして医療環境を改善することで一生学び続けようとする好奇心と意欲です。

第 5 回国連世界交通安全週間

交通事故によって年間 135 万人 が死亡しており、交通事故はいまや子どもと若者（5 歳～ 29 歳）の命を奪う最大の原因と なっていると WHO は警告しています。 交通事故による死亡のうち、歩行者と自転車によるものが 26%を占め、オートバイによる ものが 28%を占めています。

ディジタルヘルスに関する学際的技術アドバイザリーグループの設立と専門家登録

第 71 回世界保健総会決議をうけて設立されたディジタルヘルス部門では、戦略的アプローチ、介入領域、規制のためのガバナンス構造、ディジタルソリューション及び製品の採用など様々な分野の専門家からなるグループを設置し、そのメンバー を募集しています。

世界で 7 人に 1 人は低出生体重時

2015 年には7人に1人の割合で低出生体重（2500g 未満） で生まれました。毎年 250 万人の新生児が死亡していますが、そ の 80%以上が低出生体重児です。低出生体重児を減らすには、母親の栄養状態の改善、妊娠関連症状の治療、周産期の臨床 サービスの提供と社会的支援など包括的な戦略を必要とします。

WHO が UHC 実現のオンラインリソースを立ち上げ

WHOは新製品 開発が遅れている状況を打破するためのオンラインリソースを立ち上げました。現在、結核、マラ リア、HIV,シャーガス病などに対する196 の製品プロファイルが登録されています。世界的な健康への脅威に対する研究開発を促進することを目的としたものです。

認知症のリスクは生活習慣の改善で減少、ガイドラインを発行

認知症は世界で約 5000 万人が罹患し

急速に拡大しています。 新しいガイドラインによると、定期的な運動、禁煙、過度の飲酒の回避、体重管理、健康的な食事及び適切な血圧・コレステロール・血糖値の維持によって認知症のリスクを減らすことができるとしています。

第 72 回世界保健総会

薬剤耐性に関する決議を採択

世界保健総会は、多部門の国家行動計画を実施し、適切にリソースを提供するためのハイレベル の関与と貢献を継続することを求める決議に合意しました。 この決議は感染防御に取り組みための地球規模の薬剤耐性監視行動などの強化を加盟国に促すもので、SDGs2030 アジェンダの達成にむけての重要性を強調しています。

気候変動、NCDs、シャーガス病、看護・助産師の年、およびインフルエンザ対策に合意

1）健康、環境および気候変動に関する新しい世界戦略に合意 2030 年までに世界とコミュニティが直面する環境の健康上のリスクと課題と将来への道筋。島嶼開発途上国における気候変動と健康に関する行動計画。

2）非感染性疾患 NCDs がん、糖尿病、心疾患、肺疾患などの非感染性疾患による死亡の予防と治療のための行動を加速・拡大。

3）毎年 4 月 14 日を世界シャーガス・デーとして新たに設置。

4）2020 年を看護師と助産師の年とすることを決定。

5）パンデミック・インフルエンザに対する備えの枠組み。季節性インフルエンザと遺伝子配列データに関し、WHOによる分析結果の検討。

国際疾病分類 ICD-11、患者の安全性、緊急医療システム、医療施設における水・衛生サービスに関する決議を採択

1）国際疾病分類の新しい改訂版 ICD-11 を採択。

2）患者の安全性について、加盟国は協調行動をとること。9 月 17 日を世界患者安全デーとすること。WHO と英国が「グローバル患者安全共同研究会」を立ち上げ。

3）UHC のための緊急医療システムの推進。

4）医療施設における安全な水、衛生サービスを改善するための決議に合意。

世界保健統計 2019 のフルバージョンが公開

世界保健統計 2019 の概要版は 4 月 4 日に公開されていましたが、今回、世界保健総会 (WHA72)の開催に合わせてフルバージョンが公開されました。健康に関する SDGs の各指 標の最新の情報が記載されています（本誌p.33参照）。

難民や移民の健康促進のための 5 か年行動計画に合意

世界の移民の数は 2000 年から 2017 年の間に 49%増加し 2 億 5 千 800 万人、うち難民は 2450 万人となっています。1000 万人の無国籍者は教育、医療、雇用、移動の自由など の基本的権利も奪われています。 今回合意された 5 年間の行動計画は、難民と移民の受け入れと UHC 達成を目指すものです。

国立国際医療研究センター（NCGM）、世界保健総会でアラブ首長国連邦保健基金賞を受賞

世界保健総会で、日本の NCGM が「アラブ首長国連邦保健基金賞」を受賞しました。この 賞は保健開発に優れた功績のあった個人や団体におくられるものです。

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。

6月 June

第 72 回世界保健総会：医薬品・ワクチンなど健康・医療関連製品の市場の透明性を改善することに合意

この決議は、加盟国に対して健康・医療関連製品の実勢価格に関する情報の共有や医薬品の特許・臨床試験結果など、価格決定要因に関する透明性の向上を促すものです。

WHO：タバコの肺に対する広範な健康被害を強調

タバコに関連して少なくとも年間800万人が死亡していますが、その40％以上ががん、慢性呼吸器疾患、結核などの肺疾患によるものです。WHOは、たばこ規制枠組み条約FCTCの完全な実施を各国に求めています。

第 21 回 IHR 緊急委員会：ポリオウイルスの国際的拡散について声明

国際保健規則2005 (IHR) に基づく第21回緊急委員会は、2019年に野生型ポリオウイルス (WPV1) の症例がアジア地域でのパキスタンやアフガニスタンで大幅に増加していること、他方アフリカ地域での伝播型ワクチン由来ポリオウイルス (CVDPV) 感染の流行に重大な懸念を表明しました。

6 月 7 日初の国連世界食品安全デー

毎年、細菌やウイルス、寄生虫や化学物質で汚染された食物を食べることで、10人に一人が病気にかかり、42万人が死亡しています。2019年の世界食品安全デーのテーマは「食の安全は全ての人の課題」です。

毎日 100 万人以上が性感染症（STIs）に感染

WHOはクラジミア、淋病、トリコモナス及び梅毒の4つの新規感染症件数の合計が毎年3億7600万件を超え、STIsのまん延阻止に進展がみられていないとする報告書を発表しました。

フランスのリヨンに WHO アカデミー設立へ

仏のマクロン大統領とテドロスWHO事務局長は、WHOアカデミーの設立に関する宣言に署名しました。このアカデミーはリヨンに置き、多分野の関係者に開かれたものとなります。

紛争地域の 5 人に 1 人は精神障がいを抱えている

WHOは紛争地域では考えられている以上に精神障がいを持つ人々がいると推定しています。5人に1人が何らかの精神障がいを抱え、10人に 1 人が中程度から重度の精神障がいを抱えて生活しています。

雨季のデング熱増加について WHO が警告

世界中でデング熱の事例は過去50年間で30倍に増加しました。デング熱の危険にさらされている25億人のうち約70％がアジア太平洋諸国に住んでいます。症例数の増加は懸念すべきですが、それ以上に特に子どもの死亡率の増加が懸念されています。

世界の 3 人に 1 人が安全な水を利用できていない

ユニセフとWHOの共同監査報告によると、世界の何十億人もの人々が劣悪な水と貧弱な衛生の困難を抱えて生活しています。22億人が安全に管理された飲料水を利用できておらず、42億人が安全に

管理されたトイレ を使えず、30億人が基本的な手洗い施設のない生活をしています。

第 3 回 E-2020 マラリア根絶フォーラムが開催

6月18日から20日にかけて、中国江蘇省無錫で第3回E-2020マラリア根絶を目指す国々のフォーラムが開催されました。現在、38の国と地域がWHOによるマラリア清浄国の認定を受けていますが、2020年までにさらに21カ国での根絶を目指しています。

WHO：薬剤耐性に関するAWaRe キャンペーンを開始

WHOは、抗生物質の薬剤耐性の増加を抑制し、その使用を安全なものとするためのAWaReツール (WHO必須薬品リストによる) を開発し、加盟国に採用するようキャンペーンを開始しました。AWaReツールでは、抗生物質をAccess, Watch, Reserveの３つのグループに分類し、抗生物質を使用する優先順位を定めています。

WHO 西太平洋地域パートナーズフォーラム開催

WHO西太平洋地域事務局 (WPRO) では7月1 - 3日にかけてオンライン・パートナーズフォーラムを開催します。西大西洋地域は、前例がないほどの経済成長、移民、都市化など急速に変化しています。

WHO：てんかんに関する初の報告書発行

WHOは、国際抗てんかん連盟および国際てんかん協会と共同で、てんかんに関する国別、地域別、グローバルレベルの報告書を発表しました。低所得国でてんかんを患っている人の4分の3は必要な治療を受けていません。

セルフケア介入による医療サービスへのアクセス拡大

世界中で少なくとも4億人が最も必要不可欠な医療サービスを利用することができず、その一方で、2035年までに1,300万人近くの医療従事者が不足すると推定されています。この状況を踏まえ、WHOはリプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）に焦点を当て、健康のためのセルフケアによる治療介入に関する最初のガイドラインを発表しました。

ユニセフとユネスコによる校内暴力防止実践ハンドブック発行

毎年、10 億人の子供が身体的、性的、心理的な暴力あるいは無視などを経験しています。生徒の34％が前の月にいじめられており、40％が過去1年間に身体的なけんかに巻き込まれています。

WHO：暑さと健康に関するガイダンスを発行

気候変動により、過度の暑さにさらされると、すべての人間が広範囲な生理的影響を受けます。WHOは、そのような事象が数週間も続いた場合、身体的状態が悪化して、早期の死亡および身体的障がいをもたらすとしています。

トラコーマ、急速に減少

WHOによると、失明の原因となるトラコーマのリスクにさらされている人々の数は、2002年の15億人から2019年には１億４200万人へと91％減少しました。しかし今なお、44カ国で流行し続けており、根絶に向けさらなる努力が必要としています。

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。

7月 July

WHO の UHC 親善大使に武見敬三氏を任命

WHOは27日、武見敬三氏をUHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレージ)親善大使に任命したと発表しました。

武見氏は外務政務次官、厚生労働副大臣を歴任し、グローバルヘルスの分野では世界的なオピニオン・リーダーの一人です。

品質が保証された医薬品の供給に関する 5 ケ年計画を発表

複数の高血圧の治療薬に発がん性を持つと考えられた不純物が含まれていたため多くの国で製品回収が行われました。不純物は製造方法の変更によって生じたものと見られます。2014年には向精神薬が含まれていたマラリア治療薬で11人が死亡する事件も起きています。特に中低所得国では医薬品の品質と安全性に関する深刻な問題が続いています。WHOでは規制強化、医薬品の審査・承認期間の短縮などを織り込んだ5か年計画を発表しました。

WHO：必須医薬品・診断薬リストを改訂

WHOの必須医薬品リスト及び必須診断薬リストは、各国の医療システムに妥当な価格で広く使用されるべき製品の優先順位を考慮する際のガイダンスです。

公表された改訂リストはがんおよびグローバルな健康課題に焦点を当てたもので、患者に対する有効な治療、優先順位と最適な使用を強調しています。必須医薬品リストは世界150カ国以上で使用されています。

有害なアルコールの摂りすぎを減らすために国ができる 10 のこと

有害な飲酒によって毎年300万人が死亡しています。WHOはグローバル戦略として加盟国が取るべき国内行動について、10の政策と対策の分野を発表しました。

2000 万人の子どもたちがワクチン未接種

WHOとユニセフの新しいデータによると、2018年、世界で2000万人の子供たち (10人に 1 人以上) は、はしか、ジフテリア、破傷風などの命に係わる予防接種を受ける機会がありませんでした。

2010年以来、DTP3種混合ワクチンおよび、はしかワクチン接種率は86％程度で推移しています。ワクチンでこれらの流行を防御するには95％以上が必要です。

飢餓人口が 3 年連続で増加し、肥満も増加

国連食糧農業機関 (FAO) とWHOの共同報告書によると、2018年に飢餓状態にあった人は世界で8億2100万を超え、3年連続で増加しています。SDG2の栄養に関する目標は手に届きそうにありません。低・中所得国の20億人はきちんと食事をとることができていませんが、高所得国においても不規則な食事は課題となっています。

離乳食に過剰な糖分と不適切な販売を WHO 欧州が警告

WHO欧州は、欧州で市販されている離乳食7955品目を調査した結果、6か月未満の乳児に適さない過剰な糖分が含まれており、不適切に販売されていると発表しました。長期的な立場から、特に最初の6か月間、子供は母乳で育てるべきであり、6か月未満の子供に対する商業的な補助食品を広告宣伝するべきではないと明確にしています。

コンゴのエボラ出血熱に対して緊急事態宣言

WHOは、コンゴ民主共和国で拡大して

いるエボラ出血熱について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC；Public Health Emergency of International Concern)」を宣言しました。「今や世界は事態を注視し、努力を倍加させるときが来た。コンゴと結束してこの事態を収束させ、より良いヘルスシステムの構築のために協力する必要がある。WHOのみならず政府、パートナー、コミュニティなど、ここまで対応してきた諸機関、団体に対し、私たちすべてはさらなる責務を負っている」とWHO事務局長が呼びかけています。

WHO：HIV の第一選択剤としてドルテグラビル (DTG) を推奨

ベネフィット - リスク評価に基づいて、WHOはドルテグルラビル (DTG) をHIV感染者に対する第一、第二選択剤として推奨しました。これは妊婦、妊娠の可能性のある婦人を含むすべての感染者が対象です。

DTGは妊娠中に服用した場合、出生児に神経管障がいが現れるのではないかとの懸念がありました。しかしDTGとエファビレンツとの大規模な比較臨床試験ではその危険性は当初予測されたものよりはるかに低いことが示されました。

HIV の流行はなぜ終息しないのか

1980年代、HIVの診断から死亡までわずか数週間、長くても数か月で何千人もの人々がなくなりました。12月1日は30回目の世界エイズデーです。これまでに7000万人以上の人々が感染し、約3500万人が死亡しています。現在、世界中で約3700万人がHIVと共に生きており、そのうち2200万人が治療を受けています。

世界肝炎デーについて

7月28日は世界肝炎デーです。325万人がウイルス性B型肝炎、C型肝炎に罹患しており、2017年には285万人の新規患者が発生しました。肝炎は予防も治療も可能ですが、罹患している人々の80％が予防・検査・治療と無縁な状況です。

WHO：肝炎根絶に投資を各国に要請

ランセット・グローバルヘルスに発表されたWHOの新しい研究によると、中・低所得国67か国で年間60億米ドルの投資により、2030年までに450万人の早期死亡と、肝炎根絶目標時期以降に2600万人以上の死亡が回避されるとしています。

WHOの世界肝炎戦略は、2016年から2030年の間に新規肝炎感染を90％、死亡を65％減らすことを目指しています。

WHO：喫煙蔓延の状況について報告書を発表

世界では50億人以上がタバコの規制措置を導入した国に住んでいます。この人数は10年前の4倍以上になりますが、多くの国ではたばこ規制の政策がまだ適切に実施されていません。現在の喫煙者は11億人と推定され、その80％が中低所得国に住んでいます。

WHO：ヒトゲノム編集に関する WHO 諮問委員会の中間勧告を支持

ヒトゲノム編集の管理に関し、WHO諮問委員会が2019年3月に事務局長に対し中間勧告を行いました。WHOはこの勧告を支持し、加盟国の規制当局または倫理当局が、ヒトゲノム編集を含む臨床応用の申請に関する承認を控えるように助言しました。

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。